

吸い込み式ワナ型

シューツ オオバナイトヌキモ



主に水中で虫をとらえる、吸い込み式ワナ型。押しつぶされたスポイトのようなカタチで、ドアにミジンコなどが触ると開き、水と一緒にシューツと虫を吸い込みます。その後水だけを出し、スポイトがベタンコになると虫も押しつぶされて消化・吸収されます。

落とし穴型

ツルツル ウツボカスラの種類 (ネベンテス・トルンカタ)



つぼ状の袋に消化液を含んだ水をため、虫が来るのを待ちます。つぼの上部はツルツルのロウ質で、袋から出る蜜に誘われた虫がここに止まると滑り落ち、おぼれて消化・吸収されます。

もんどり型

ズズン サラセニア



中に入った虫は、内部にある下向きの逆毛のために後戻りできなくなり、魚とり用のもんどりと同じ仕組みです。奥へ奥へとズズン進むうちに、やがて消化・吸収されてしまいます。

ズームイン！ 食虫植物

特集 不思議！ユニーク！ちょっぴり怖い！？
ようこそ、奇想天外な世界へ

子どもから大人まで人気のある食虫植物。いますっかりお馴染みですが、いろんな種類がいることは意外と知られていません。そこで夏休み直前の今、食虫植物を特集。虫のいろんな捕まえ方から奇妙な生態、世界の食虫植物までバラエティ豊かにご紹介します。

とりもち型

ネバネバ ムシトリスミレ



葉の表面にあるたくさんの腺毛からネバネバした液を分泌し、止まった虫を捕まえます。虫を捕まえる腺毛と、消化・吸収する機能(腺)が分かれています。

ネバネバ サスマタモウセンゴケ



腺毛のネバネバした液で虫を捕まえた後、腺毛を折り曲げながら虫を取り込みます。また、同じ腺毛から消化液を出して養分を吸収します。

二枚貝式ワナ型

パクッ ハエトリグサ



まるで二枚貝が口を開けた姿で虫が来るのを待ち、虫が入ったことを感じた瞬間、パクッと口を閉じて捕まえます。時間をかけて消化し、殻だけを吐き出します。別名は「ハエジゴク」...

パクッ ムジナモ



ミジンコなどを養分とする水草です。二枚貝のような葉が虫を感じると1/50秒の速さで閉じ、養分を吸収した後、ゆっくりもとの位置へ戻ります。



- A ネバネバの葉に虫がベッタリ
- B ハエジゴクとも呼ばれます
- C 内部はバクッ禁止の一方通行

この花、どれがワカルカナ？

ちょっぴり怖いイメージの食虫植物も、じつはこんなに可愛い花を咲かせます。上で紹介した中どの植物が、ヒントを参考に考えてみよう！

食虫植物の基礎知識

これだけは知っておきたい

あの手の手のテクニクで虫をキャッチする食虫植物。そして、その手となるのが葉っぱの部分。葉または葉の一部が変形したもので、そのカタチによって捕まえ方が違います。大きく分けると上記のよつな5つのタイプ(もんどり型・二枚貝式ワナ型・吸い込み式ワナ型・落とし穴型・とりもち型)がありますが、いずれも自分の力で虫を捕まえて、まるで動物のような栄養の取り入れ方をする高等植物とも言えるでしょう。現在では、世界に約11科550種が分布していますが、いずれも養分が少ない土地に生育しているため、根の発育が悪く、養分を補う意味で虫を捕まえ、消化・吸収しているのです。食虫植物のルーツは、数千万年前の白亜紀にまでさかのぼると言われています。地球の厳しい環境変化に順応できたものだけが生き残り、進化を重ねてきたのです。